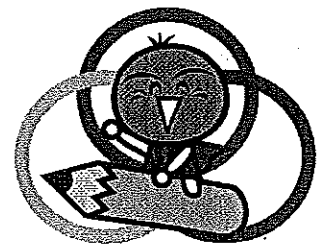


徳島県キャリア教育推進指針(案)

平成26年3月
徳島県教育委員会



はじめに

今日、我が国において、産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等が進む中、若者の職業人としての基本的な能力の低下や精神的・社会的な自立の遅れ等が指摘されています。

このため、学校においては、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成することを通して、キャリア発達を促す「キャリア教育」の推進が求められています。

本県学校におけるキャリア教育の現状としては、県内外の調査結果から、子供たちの職業に対する理解不足、将来の夢に向かって努力する気持ちや自己肯定感の低下、学校におけるキャリア教育を推進するための組織体制が整っていない等様々な課題が見られます。

県教育委員会といたしまして、これらの課題を解決し、本県学校におけるキャリア教育を推進するための指針づくりを目的として、学校関係者・経済団体・有識者等による「徳島県キャリア教育推進協議会」を設置し、協議のもと、幼稚園教育から発達段階に応じて系統的・体系的にキャリア教育を推進するための指針となる「徳島県キャリア教育推進指針」を策定いたしました。

本指針では、本県が目指すべきキャリア教育として、子供たちが夢や希望を持ち、主体的に未来を切り拓き、将来社会人や職業人として自立することができる力の育成を図るとともに、キャリア教育で身に付けさせたい能力・態度として「かかわる力」「みつめる力」「すすむ力」「えがく力」の4つの力を示しています。

また、学校におけるキャリア教育を推進するための方策として、教育課程への位置付けをはじめとし、学校間や学校・地域間の連携の必要性、体験的な学習活動の推進を示すとともに、教育活動全体を通して体系的に取り組むために、本県独自の考え方として、「R（リサーチ）」を加えた「R-PDCA」サイクルによる推進を示しています。

各学校におかれましては、本指針を十分に活用し、学校長のリーダーシップのもと、学校全体でキャリア教育についての共通理解を図りながら、推進していただくとともに、学校・家庭・地域・経済団体等が一体となったキャリア教育の推進をこれまで以上にお願いいたします。

最後になりましたが、本指針の作成に御尽力を頂きました徳島県キャリア教育推進協議会の委員の皆様方に厚くお礼を申し上げます。

平成26年3月

徳島県教育委員会

教育長 佐野 義行

目 次

はじめに

ページ

I 本県におけるキャリア教育の課題	1
II 本県におけるキャリア教育の考え方	
1 本県が目指すキャリア教育	2
2 本県におけるキャリア教育で主に身に付けたい能力・態度	2
III キャリア教育推進方策	
1 学校におけるキャリア教育の推進のために	4
2 発達段階に応じたキャリア教育	6
IV キャリア教育の充実に向けて	
1 校内の体制づくり	8
2 幼・小・中・高の学校間連携（縦の連携）	14
3 学校・地域間連携（横の連携）	16
4 体験的な学習活動の充実	21
キャリア教育に関する参考資料	
1 キャリア教育とは	24
2 本県におけるキャリア教育の現状	27
3 本県キャリア教育の全体計画（例）	31
4 学校で活用できる資料・冊子	32

I 本県におけるキャリア教育の課題

我が国は、現在、グローバル化・情報化・少子高齢化など様々な課題に直面しており、本県においても同様な課題があります。また、子供・若者の「社会的・職業的自立」や「学校から社会・職業への移行」に向けて様々な課題が見られる中で、学校におけるキャリア教育の一層の推進が求められています。

本県においては、キャリア教育の推進に向け、これまでも「キャリア教育の推進に向けて」の冊子の作成・配布など様々な取組を行ってきました。

平成25年3月には、社会の変化や教育の課題に一層適切に対応していく必要から「徳島県教育振興計画（第2期）」が策定され、その施策の中で、キャリア教育の推進が挙げられています。

平成25年3月に本県学校におけるキャリア教育の現状と課題を把握するために、県内小・中・高等学校において「キャリア教育に関するアンケート調査」を実施し、全国調査との比較により、実態把握を行い、今後のキャリア教育を推進するための課題を分析しました。

このアンケート調査結果と、「平成25年度全国学力・学習状況調査学校質問紙」、「平成24年度生徒の意識等に関わる調査（徳島県）」、「平成24年度徳島県高等学校におけるインターンシップ実施状況」、「平成24年度特別支援学校における就業体験人数及び事業所への訪問回数」、「新規高等学校卒業就職者の離職率の推移（全国）」（厚生労働省「新規学校卒業者の就職離職状況調査結果」）から、本県のキャリア教育を推進する上で、次のことが課題として挙げられます。

- | | |
|-----|--|
| 課題1 | 子供たちの働くことへの意欲は高いが、職業に対する理解が不十分である |
| 課題2 | 子供たちに将来の夢や目標に向かって努力する気持ちや、課題に対してたくましく対応しようとする意識が低い |
| 課題3 | 子供たちの地域や社会の出来事への関心や自己肯定感が低い |
| 課題4 | 学校におけるキャリア教育を推進するための組織体制が整っていない |
| 課題5 | 体験的な学習活動を実施するための受入先の確保が必要である |
| 課題6 | 本県における新規高等学校卒業就職者の卒業後3年以内の離職率は全国水準を上回っている |

（全国的な傾向として、仕事が向いていない、職場での人間関係等が離職の主な原因として挙げられている。

〔平成21年3月新規高校卒業予定者の採用に関するアンケート調査〕

これらの課題を踏まえながら、今後は幼稚園教育から、発達段階に応じて系統的・体系的に学校・家庭・社会全体で、子供たちの社会的・職業的自立に向けた力を育成するとともに、変化の激しい社会を生き抜く力の育成が必要であり、キャリア教育の一層の推進が重要となります。

II 本県におけるキャリア教育の考え方

1 本県が目指すキャリア教育

これらの課題を解決していくためには、これまでにない新たな視点や発想に基づく価値を創造し、社会の各分野を牽引していく人づくりが重要となってきます。

我が国の子供たちの課題として、将来就きたい仕事や自分の将来のために学習を行う意識が低いことが国内外の調査から明らかになっており、学校教育においては子供たちが自らの将来に対する夢やあこがれを持ち、将来就きたい仕事等を描きながら、学習の意義を認識し、意欲的に学習に取り組もうとする気持ちや態度の育成が重要となってきます。

本県では、中央教育審議会の答申である「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方」（以下「答申」という）や、「徳島県教育振興計画（第2期）」に基づき、本県児童生徒の実態や地域性を踏まえながら、次のようなキャリア教育を推進します。

夢や希望に向かってチャレンジし、社会の一員として、ともに支え合い、ふるさと徳島に愛着と誇りを持つ人を育むとともに、一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力・態度を培うことを通して、キャリア発達を促す教育

2 本県におけるキャリア教育で主に身に付けたい能力・態度

キャリア教育を推進するために、県内外のアンケート調査等に基づく課題から、本県では、「かかわる力」「みつめる力」「すすむ力」「えがく力」の4つの力を育成すべき能力・態度とし、本県の子供たちが主体的に未来を切り拓き、将来、社会人・職業人として自立することができる力の育成を図る必要があります。

これらの4つの力は、「答申」にある「基礎的・汎用的能力」に対応したものであり、それぞれ独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にあります。そして、これらの力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるかは、児童生徒の実態によって異なりますが、工夫された教育活動により育成することが必要です。

また、現代社会では情報の力が社会を動かす重要な要素となっています。4つの力を育む上でも、情報機器を活用した情報収集や情報探索が必要であり、幅広く情報を活用することにより、自己の進路や生き方の選択に生かすことができます。本県においては、「かかわる力」「みつめる力」「すすむ力」「えがく力」の育成を推進するためにも変化の激しい社会の中で必要とされる、情報を活用することができる能力（情報リテラシー）の育成が重要です。

【 】内は、主に対応する基礎的・汎用的能力

円滑な人間関係を形成するために

かかわる力

【人間関係形成・社会形成能力】

多様な他者の考え方や立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

本県においては、他者や様々な集団、社会とかかわる力を育むことにより、他者と協力・協働して今後の社会を形成していくために必要なコミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップ等の育成を図る

自尊感情を高め、主体的に進路を切り拓く力の育成のために

みつめる力

【自己理解・自己管理能力】

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ今後の成長のために進んで学ぼうとする力

本県においては、自分自身を客観的・肯定的にみつめる力を育むことにより、キャリア形成において基盤となる自己理解能力や主体性、忍耐力等の育成を図る

物事に主体的に取り組むための力の育成のために

すすむ力

【課題対応能力】

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

本県においては、物事を解決して前に進めていくすすむ力を育成することにより、様々な課題に対応し、解決していくために必要な情報活用能力や計画立案力・実行力等の育成を図る

将来の在るべき姿を想像し、夢や希望を育むために

えがく力

【キャリアプランニング能力】

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

本県においては、社会人・職業人として生きていくために将来の生き方をえがく力を育成することにより、学ぶことや働くことへの理解や、将来設計力等の育成を図る

Ⅲ キャリア教育推進方策

1 学校におけるキャリア教育の推進のために

キャリア教育には、学習指導要領の理念である「生きる力」の育成とともに、子供たちが変化の激しい社会において、力強く生きていくために必要な資質や能力を育てていくという重要な役割が期待されています。

学校においてキャリア教育を推進していくためには、子供たち一人一人のキャリアが多様な側面を持ちながら段階的に発達していくことを認識し、キャリア教育を学校教育の中において、どのように位置付け、推進していくかについて明確な方針を打ち出すことが必要となります。

さらに、キャリア教育における担当者の配置やキャリア教育推進委員会の設置等、キャリア教育を推進するための組織体制の構築も必要です。

(1) 教育方針の明確化と教育課程への位置付けを行いましょう

子供たちに必要とされる能力や態度を意図的・継続的に育成するためには、キャリア教育を体系的に推進する必要があります。そのためには、学校の特色や教育目標に基づいて、教育課程に明確に位置付けることが必要であり、キャリア教育の全体計画やそれを具現化するための年間指導計画を作成することが必要となります。

全体計画を作成することによる効果

- 学校全体で計画性と体系性を持ったキャリア教育を展開することにつながる
- 学校におけるキャリア教育の取組について、家庭や県民への情報発信となる

年間指導計画を作成することによる効果

- 発達の段階に応じて学年を通してキャリア発達を支援することができる
- 発達の段階に応じて身に付けさせたい能力や態度の到達目標が明確になる
- 年間における活動がどのような能力や態度の育成を図ろうとするものが明確になる
- 各教科・科目、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び学年の取組等かどのように関連付けられているか明確になる

(2) 人間関係形成等のための場や機会を設定しましょう

豊かな人間関係を築くことは、社会との関わりの中で生活し、仕事をしていく上では基礎となるものであり、円滑な人間関係を形成するために必要な「かかわる力」の育成は、本県で重視している能力・態度です。

この能力・態度は、学校教育の中で、長い年月をかけて育まれるものであり、各学校においては、様々な教育活動において積極的に身に付けるための場や機会を設定する必要があります。

これらの場や機会を設定するに当たっては、多様で幅広い他者との関わりが不可欠であり、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校との学校種を越えた連携（縦の連携）や、家庭・地域・企業・就労支援機関等との連携（横の連

携)を図ることも重要となります。

連携の効果としては、「かかわる力」の育成はもとより、縦の連携により、教員が異校種の活動について理解し、体系的なキャリア教育を推進することにつながります。

また、横の連携を図ることで、家庭からの理解や協力を得やすくなるとともに、地域の人材を活用した実践（講演や出前授業等）により、職業への理解や経済・社会の仕組み、社会人・職業人として必要な知識や働くことの意義を理解させることができ、現実の社会の厳しさも含めて、子供たちが将来を実感あるものとして捉えることができる「みつめる力」の育成の機会にもなります。

(3) 体験的な学習活動を効果的に活用しましょう

学校において「すすむ力」、「えがく力」を育成するためには、学校内における教育活動だけでなく、社会・職業にかかわる様々な活動を通して、新たな気付きや発見をさせるための体験的な学習活動を充実させていくことも必要です。体験的な学習活動の一環である職場見学や職場体験、就業体験（インターンシップ）を実施することにより、勤労観・職業観の芽生えや、働くことや学ぶことへの意欲の向上など様々な効果が期待されています。

学習指導要領では、小学校では集団宿泊活動、中学校では職場体験活動、高等学校では奉仕活動や就業体験活動を重点的に推進することが、キャリア教育の視点からも重要な役割を果たすものであると位置付けられています。各学校においては、子供の発達段階を意識しながら取り組むことが必要であるとともに、目標を明確にし、体験の効果をより引き出すための体験前の事前指導や事前学習、さらに体験後の事後指導を充実させる必要があります。

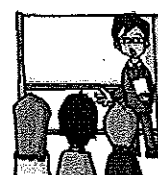
(4) キャリア教育における教育活動の評価・改善を行いましょ

学校におけるキャリア教育を充実させるには、日々の教育活動におけるキャリア教育の評価や改善の実施も推進方策として大切です。例えば、各学校において、キャリア教育に関する学習活動の過程・成果に関する情報を集積した学習ポートフォリオの作成や活用等も挙げられます。また、学校評価の結果を生かしながら、検証・改善を図る必要があります。

(5) 教職員の意識・指導力の向上を図りましょ

学校の教育活動全体でキャリア教育を推進するには教職員のキャリア教育に対する意識や指導力の向上は不可欠であり、教職員一人一人が担当する教科・科目や教育活動の中で具体的に実践できる力を高めていくことが必要であり、そのためにも研修の充実が大切となってきます。





中でも、キャリア教育の全体計画・年間指導計画の作成や、計画に沿った教育活動を具体的に実践していくための指導方法等に関する研修、先進校の事例研究や評価・検証等について学ぶ場としての研修が必要となります。



2 発達段階に応じたキャリア教育

キャリア教育は、幼・小・中・高の各発達段階に応じた課題を系統的・体系的に推進していくことが必要です。

キャリア教育の推進に当たっては、次のような課題や推進ポイントがあります。

発達段階	発達段階における課題	推進ポイント
幼稚園 幼稚部 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 人や社会とかかわる基盤形成の時期 </div> ～身近な環境に主体的にかかわろうとする力の育成～ ○信頼関係のもとでの情緒の安定と自己発揮 ○人とかかわる力や自立心、望ましい習慣や態度の形成 ○日常生活に必要な言葉の獲得と伝え合う喜びの実感 ○豊かな感性や創造性、自己を表現する力の育ち	幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開できるようにすることを通して、人や社会とかかわる力の基盤形成を図る
小学校 小学部 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期 </div> ～夢や希望に向かって努力する能力・態度の育成～ ○自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ○身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ○夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得 ○勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成	日々の教育活動や職場見学等、地域社会と関わる活動を通して、「働くこと」の意義や「自己の生き方について考えを深める」活動を推進する
中学校 中学部 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 現実的探索と暫定的選択の時期 </div> ～将来の進路と社会をつなぐ能力・態度の育成～ ○肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ○興味・関心などに基づく勤労観・職業観の形成 ○進路計画の立案と暫定的選択 ○生き方や進路に関する現実的探索	社会における自らの役割や将来の生き方・働き方について考えさせるために、職場体験等の体験的な学習活動を通して、現実の社会を学ぶ活動を推進する
高等学校 高等部 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 現実的探索・試行と社会的移行準備の時期 </div> ～自ら考え、未来を切り拓く能力・態度の育成～ ○自己理解の深化と自己受容 ○選択基準としての勤労観・職業観の確立 ○将来設計の立案と社会的移行の準備 ○進路の現実吟味と試行的参加	就業体験等の様々な体験的な学習活動を通して、社会・職業への現実的理解を深め、将来に向けての目標設定や社会に参画する意識を醸成する活動を推進する

(文部科学省「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引」(平成18年11月))及び(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))をもとに作成

※特別支援学校では、上記の課題、推進ポイントに加え、個々の障がいに応じたきめ細かい指導・支援のもとで、適切なキャリア教育を行うことが必要です。

「キャリア教育で身に付けた能力・態度」(例)

国の「基礎的・汎用的能力」に対応させた4つの柱

発達段階 身に付けた能力	小学校 幼稚園 小学校 中学校 高学年		中学校 中学期		高等学校 高等部	
	幼児園 幼稚園	低学年	通路的探求・選択にかかると基礎形成の時期	進路の探求と暫定的選択の時期	現実的探求・試行と社会的移行準備の時期	現実的探求・試行と社会的移行準備の時期
かかわる力	<p>○挨拶や返事を返す。「ありがとう」や「ごめん」など「いい」を言う。</p> <p>○先生や友達に親しみをもち、話をしたり話をして聞くことができる。</p>	<p>○基本的な挨拶や返事が言える。</p> <p>○自分の考えをみんなの前で話す。</p> <p>○先生や友達の話や話を聴くことができる。</p>	<p>○自分の意見や気持ちを分かちあう。</p> <p>○友達や先生や友達と協力して、学習や活動に取り組む。</p>	<p>○思いやりや相手の立場に立ち、相手の立場や考えを尊重し、活動に参加し、役割や責任を果たす。</p>	<p>○他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。</p> <p>○人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションの基礎を習得する。</p> <p>○リーダーとフォロワーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をすすめる。</p> <p>○新しい環境や人間関係に適応する。</p> <p>○基本的な生活習慣(挨拶、マナー等)を確立する。</p>	<p>○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意見等を的確に理解する。</p> <p>○異なる年齢の人や異性等、多様な他者との場に応じた適切なコミュニケーションを図る。</p> <p>○リーダー・フォロワー・ファシリテーターの役割を理解し、チームワークを高め、新しい環境や人間関係を築く。</p> <p>○社会人・職業人としての必要とされる基本的な生活習慣(挨拶、マナー等)を身に付ける。</p>
みつめる力	<p>○自分の好きなことや得意なことを話したり、友達と仲良く遊び、助け合ったり、お世話をする。</p>	<p>○自分のよきところや得意なところを認め、励まし合う。</p> <p>○自分の生活を支えている人に感謝する。</p>	<p>○自分の長所や欠点を認め、自分らしさを発揮する。</p> <p>○話し合いなどにより、積極的な意見を出し、自分と異なる意見も理解しようとする。</p>	<p>○自分のよさや個性が分かり、他者のよさや感情を理解し、尊重する。</p> <p>○自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。</p> <p>○自分の生活に責任を持ち、自分自身の悩みを話せる人を持つ。</p>	<p>○自分の職業的な能力・適性を理解し、それを活かす機会を探し、積極的にチャレンジする。</p> <p>○互いに支え合い、分かり合える友人を得る。</p>	<p>○自己の職業的な能力・適性を理解し、それを活かす機会を探し、積極的にチャレンジする。</p> <p>○互いに支え合い、分かり合える友人を得る。</p>
すすむ力	<p>○自分のことでは自分で行動する。</p> <p>○生活や学習の中で疑問を解決する。</p>	<p>○自分の仕事に対して責任を持ち、最後までやり遂げる。</p> <p>○自分の力で課題を解決しようとする。</p> <p>○計画づくりに必要な情報を集める。</p> <p>○学習等の計画・立案をすすめる。</p>	<p>○生活や学習上の課題を解決しようとする。</p> <p>○自分の夢や希望を持ち、目標を設定し、努力する。</p> <p>○自分の必要となる情報を集める。</p> <p>○計画づくりに必要な手順が分かる。</p>	<p>○学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択や進路に生かす。</p> <p>○学習や生活や進路について、自ら課題を見出し、自ら課題を解決しようとする。</p> <p>○課題に取り組む、主体的に解決しようとする。</p> <p>○生活や進路に関する情報を整理し活用する。</p>	<p>○インタナーシップや奉仕活動等様々な体験的な学習を通して、働くことの意味を理解する。</p> <p>○将来の社会生活・職業生活に必要な力を理解する。</p> <p>○将来の職業を意図して、計画的・主体的に学ぶ。</p>	<p>○インタナーシップや奉仕活動等様々な体験的な学習を通して、働くことの意味を理解する。</p> <p>○将来の社会生活・職業生活に必要な力を理解する。</p> <p>○将来の職業を意図して、計画的・主体的に学ぶ。</p>
えがく力	<p>○身近で働く人々の様子に興味・関心を持つ。</p> <p>○家の手伝いや役割や片づけの準備や片づけの経験がある。</p> <p>○決まらされた時間やきまりを守ろうとする。</p>	<p>○日常生活にはいろいろな役割がある。</p> <p>○社会生活にはいろいろな役割がある。</p> <p>○仕事や変化に慣れる。</p> <p>○将来への夢や希望を持つ。</p>	<p>○社会生活にはいろいろな役割がある。</p> <p>○仕事や変化に慣れる。</p> <p>○将来への夢や希望を持つ。</p>	<p>○日常生活にはいろいろな役割がある。</p> <p>○仕事や変化に慣れる。</p> <p>○将来への夢や希望を持つ。</p>	<p>○自分の生活や将来の生き方との関係を理解する。</p> <p>○自分の生き方を考える。</p> <p>○将来の夢や希望を思い出し、意欲を高める。</p> <p>○自分の進路計画に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。</p> <p>○産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の变化のありさまを理解する。</p>	<p>○学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。</p> <p>○ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。</p> <p>○将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。</p> <p>○生きがいを、やりがいがあり、自己を磨かせる生き方や進路を現実的に考える。</p>

(文部科学省「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引」(平成18年11月)をもとに作成)

IV キャリア教育の充実に向けて

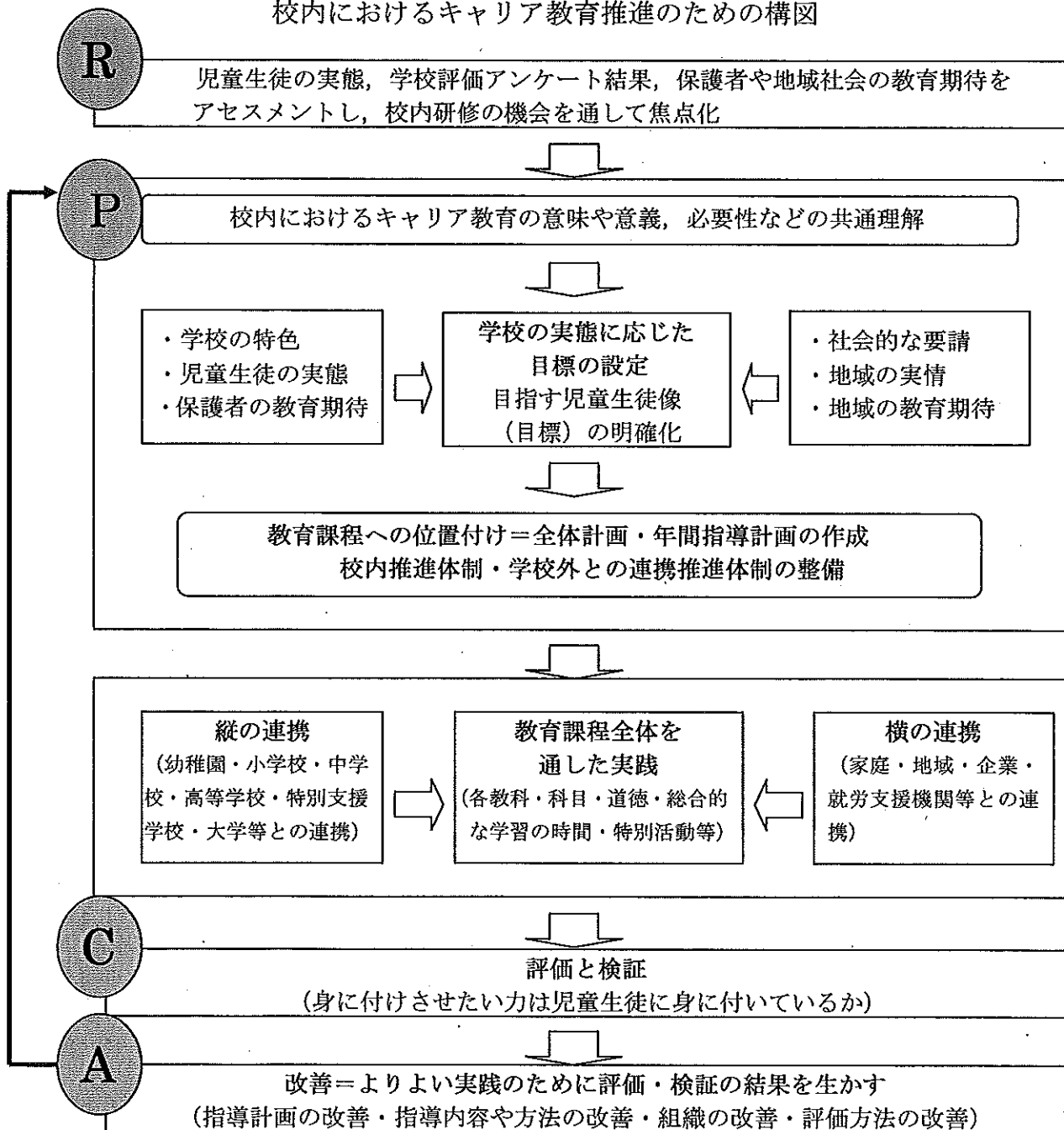
1 校内の体制づくり

キャリア教育は、学校の教育活動全体を通して体系的に取り組むことにより、そのねらいを達成することができます。そのためには、学校全体で、全教職員が一丸となって、キャリア教育推進のために協働できる組織や体制づくりが必要となります。

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校においては、児童生徒や地域の実態に応じて学校ごとに焦点化・重点化して全体計画を作成し、計画・実践・評価の一体化を図ることが重要です。

(1) R-PDCAサイクルによるキャリア教育の推進

校内におけるキャリア教育推進のための構図



① R (Research)

PDCAサイクルを円滑に推進するには、まず計画 (Plan) の前に、自校の児童生徒の現状や学校に対する保護者や地域社会の教育期待の内容を客観的事実として把握することが大切です。学校評価アンケート等の活用により、児童生徒の「よさと課題」を校内研修等を通して教職員間で可視化し、児童生徒が自己の将来についてどのように考え、今後どのような力を身に付ける必要があるのか等「基礎的・汎用的能力」の実態を調査し、共通理解を図ることが必要です。

② P (Plan)

明らかになった課題を解決するために必要な育成すべき能力・態度を重点化し、教職員間で共有して、目標を設定し、計画を立てることが大切です。

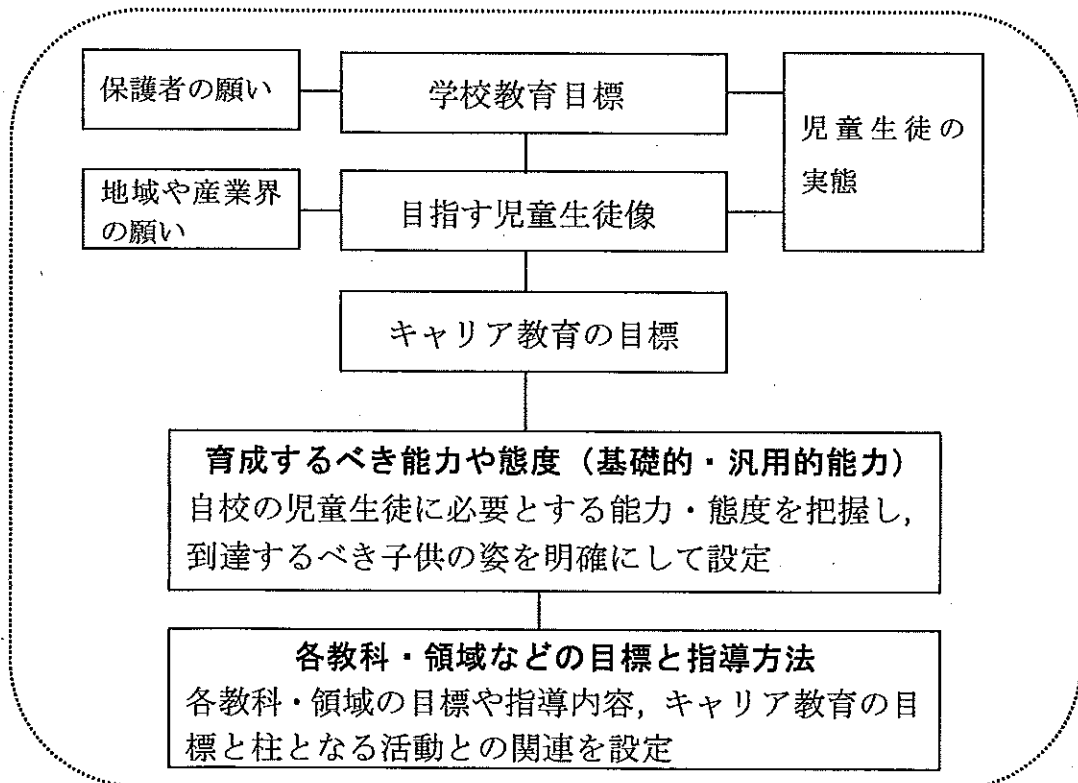
目標を設定するためのポイント

- 課題を解決するために育成すべき基礎的・汎用的能力の視点が含まれている
- 児童生徒に必要な能力・態度が育成されているか、検証が可能である

(ア) 全体計画の作成

全体計画は、児童生徒のキャリア発達を促進するために必要とされる諸能力や態度を意図的・計画的に育成するために、各学校における教育目標や、育成したい能力や態度、教育内容と方法、各教科等との関連を示すものです。まずは現在行っている取組をキャリア教育の視点で見直す必要があります。

キャリア教育の全体計画作成における項目例



「P31 本県キャリア教育の全体計画 (例) 参照」

(イ) 年間指導計画の作成

年間指導計画は、各発達段階における能力や態度の到達目標を具体的に設定するなど、全体計画に沿って作成する必要があります。

年間指導計画作成に当たっての留意点

- 各学校の児童生徒の実態や発達段階に応じた目標や内容にする
- 各教科・科目、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び学年の取組等、それぞれのねらいや内容を踏まえて関連付けを図る
- 入学から卒業までを見通して児童生徒のキャリア発達を支援できるよう、具体的で系統的なものとする
- 評価の視点を考慮し、評価方法を検討する
- 家庭や地域、学校間連携を考慮する

③ D(Do)

キャリア教育の実践においては、児童生徒一人一人がその発達段階における課題の達成を通して将来、社会人・職業人として自立していくために必要な基礎的・汎用的能力を身に付けさせる必要があります。

学校教育の中で実践できることには限りがあるからこそ「今」「この学校で」「この子供たちに」といった視点から、優先順位の意識を持つことが大切です。

実践についてのポイント

- 各教科・科目、道徳、総合的な学習の時間、特別活動など、それぞれの教育活動の特質を生かしつつ、相互の関連を図りながら実践する
- 児童生徒の成長や変容を把握しながら、必要な場合はフォローアップや計画の修正を加える
- 面談だけでなく、柔軟に個別支援の機会を捉えて、児童生徒が自分の長所や可能性に気付いたり、将来を展望したりする契機となり得るようにコミュニケーションを図る

④ C(Check)

キャリア教育に関する評価・検証(Check)とは、あらかじめ設定された計画(Plan)に基づく実行(Do)がどのような成果を上げたのかを検証することです。

キャリア教育における評価には、「児童生徒の成長や変容に関する評価」と、「教育活動としてのキャリア教育全体の評価」の2つの視点があります。各学校の目標及び育成する能力や態度、教育内容・方法等との関係から、児童生徒にどのような力が身に付いたのか、その育成のための教育活動は効果的であったのか、指導計画は適切であったのかなど、多面的に評価することが必要となります。

児童生徒の成長や変容に関する評価を行うためのポイント

- 各教科・科目、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の目標やねらい、また各教科等の評価規準にキャリア教育の視点を盛り込む
- 進路指導の評価にキャリア教育の視点や内容を取り入れる
- 指導と評価の一体化を図るために、キャリア教育に関する学習活動の過程や成果に関する情報を集積した学習ポートフォリオを作成し、積極的に活用する

評価に生かせる学習成果物の例



- ・ 児童生徒が作成したレポート、ワークシート、ノート、作文、絵等
- ・ 学習活動の過程や成果の記録
- ・ 自己の将来や生き方に関する考え方の記述(進路相談シート等)
- ・ 児童生徒の自己評価や相互評価の記録(評価カード等)
- ・ 保護者や地域、職場の人々による他者評価の記録(体験記録カード等)
- ・ 教師による行動観察記録、進路学習などで行った検査や調査の結果等

教育活動の評価のポイント

- 目標の設定については、具体的で妥当であったか、目標設定過程への教職員の参加度、理解度についての視点を盛り込む
- 実践中の評価については、児童生徒は積極的に取り組んでいるか、理解はどうか、期待した取組をしているか、期待した変化や効果の兆しはあるか、教職員が適切な指導を行っているか、保護者などへの説明は適切であるか、児童生徒の感想はどうかといった様々な視点を盛り込む
- 評価の方法については、評価のための計画は適切に立てられていたか、評価方法やそのための資料は前もって用意されていたか、評価方法は妥当であったか、教員、児童生徒の評価への理解は十分であったかなどの視点を盛り込む

⑤Action

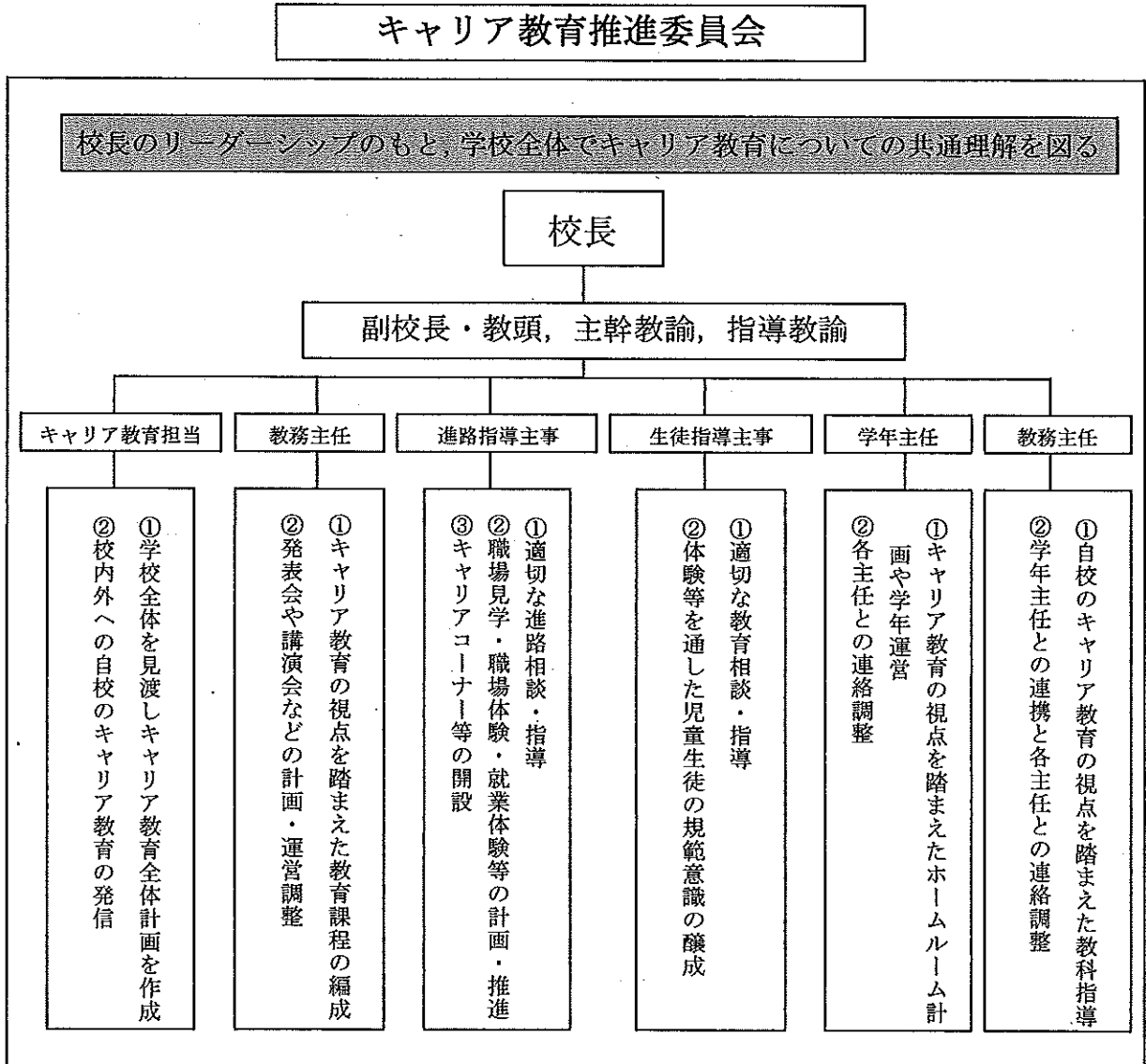
評価によって児童生徒の変容が明らかになると、次には評価を改善につなげる取組が必要となります。

6つの視点での評価の具体的活用(例)

- 不足している能力を向上させるために、指導計画の改訂に生かす
- 教職員が課題を共有できるように校内研修に生かす
- 全ての教職員が共通した意識を持てるように運営組織の改善に生かす
- 学級や学年単位で児童生徒の状況を把握し、個別的な支援・指導に生かす
- 連携した双方の学校や児童生徒の変化を把握し、学校間連携に生かす
- 体験的な学習活動における効果を把握し、地域・社会連携に生かす

(2) キャリア教育を推進するための校内組織体制

学校の教育活動全体を通してキャリア教育を推進するためには、キャリア教育を支えるための全体運営体制が必要となります。全教職員がキャリア教育の意義を理解し、関連する分掌全てを結び付けることができるキャリア教育推進委員会等の組織を整えていくことが求められています。



参考 (文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」(平成23年11月))

※学校の状況に応じて、特別活動主任を位置付けることも必要

(3) 校内におけるキャリア教育の研修の充実と指導力の向上

学校全体でキャリア教育を推進するに当たっては、教職員間でキャリア教育についての理解を深める必要があります。

キャリア教育は、教職員がチームを組んで互いに持ち味を発揮して指導に当たることによって、児童生徒の多様な学習状況に対応することができるので、各学校においては、教職員全体の指導力向上を図る必要があります。したがって、校内研修を充実させることは、各学校にとって大切なことです。

【 校内研修の内容（例） 】

	研修のテーマ	ねらい
第一回	キャリア教育の意義	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校におけるキャリア教育の意義を理解する。 キャリア教育の推進に不可欠な教職員全体の意識を高める。 例) 講師の活用やグループにおける協議等
第二回	キャリア教育の目標の設定	児童生徒のキャリア発達上の課題や育成したい能力・態度を明らかにし、キャリア教育の目標を設定して、目指す児童生徒像を明らかにする。 例) 目指す児童生徒像を明確にし、全体計画や年間指導計画を作成
第三回	キャリア教育の視点に立った授業づくり	指導計画を作成する能力や授業研究により、指導力の向上を図る。 例) 各教科等の指導計画の検討や授業研究会での協議
第四回	家庭や地域との効果的な連携	家庭や地域との連携の重要性や、各学校の特性を生かした効果的な連携の進め方について考える。 例) 講師を活用し、教職員・保護者を対象とした講演会の開催、保護者や地域の人々に協力を依頼できる活動内容の検討
適宜	キャリア・カウンセリング	基本的なカウンセリング能力が全教員に必要であることを理解し、その実際を学ぶ。 例) 教職員と児童生徒のコミュニケーション能力を高める相談活動

(参考) 校内のキャリア教育推進体制を確認するためのチェックシート

項目	チェック内容	チェック欄
1	学校教育目標にキャリア教育を位置付けている	
2	キャリア教育の全体計画を立てている	
3	キャリア教育を学校の教育活動全体で行っている	
4	校内にキャリア教育推進委員会等を設置している	
5	キャリア教育に関する校内研修を実施（計画）している	
6	教職員全体がキャリア教育について共通理解している	
7	地域の異校種間でキャリア教育に関し連絡協議会を設置するなどの連携を図っている	
8	職場見学・職場体験・就業体験等を実施している	
9	職場見学・職場体験・就業体験等の事前・事後指導を計画的に行っている	
10	学校だより、PTAだより等でキャリア教育の広報活動を行っている	
11	社会人講師の活用等、地域の教育力を活用している	
12	ハローワーク等関係諸機関と連携している	
13	学校評価等でキャリア教育の評価を行っている	
14	評価結果に基づき、指導等の改善を図っている	

2 幼・小・中・高の学校間連携（縦の連携）

（1）学校間連携のポイント

キャリア教育は、一人一人の人間の成長に関わるものであり、幼稚園から小学校、中学校、高等学校において連続性を保つことが重要となってきます。

各学校において、体系的なキャリア教育の充実を図るためには、異なる学校種の活動について理解を深め、系統性のある指導計画を作成することがポイントです。

円滑な連携を図るためのポイント

- 異校種間の活動について、教職員が互いに理解を深める
- 発達の段階に応じた系統性のある指導計画を作成する
- 幼児児童生徒のキャリア発達に関する情報を引き継ぐ

（2）学校間連携の具体的な活動

- 上級学校訪問（説明会、見学会、体験入学、学校行事等）
- 児童生徒の職場見学・職場体験・就業体験（インターンシップ）の受入れ
- 異校種間における幼児児童生徒の交流（授業・学校行事・部活動）
- 体験授業・活動の実施（体験入学、実習、出前授業）
- 教職員の交流（合同研修会、授業見学会・公開授業等）

（3）学校間連携の効果

① 幼児児童生徒にとっての効果



- 上級学校との交流により、学校についての情報を知ることによって、小1プロブレムや中1ギャップなどの不安が解消されることにつながる
- 異校種間の幼児児童生徒との交流により、人間関係形成能力の育成につながる
- 自分の進路について考える機会となり、将来の進路が広がり、学習意欲の向上や生活全般の向上につながる

② 学校や教職員にとっての効果



- 幼児児童生徒の発達段階を十分に考慮し、見通しを持って幼稚園教育から系統的に指導をすることができる
- 教職員が互いに理解を深めることにより、計画的・継続的な学習指導や生徒指導を展開することができる
- 学校間で交流授業を行うことで、各教科や領域の学習を通じて指導内容や指導方法を共有することができる
- 教職員が互いのよさを取り入れることで、相互の指導の幅が広がり、意識改革にもつながる

【県内での学校間連携の取組事例】

○ 小学生と中学生の交流



【花の栽培体験】

小・中学生
生合同の
花の栽培
への取組

中学校での職場体験
学習発表会に小学生
を招待し，中学生に
発表させることで，
小学生に身近な自己
の将来をイメージさ
せる取組



【職場体験学習発表会】



【講演・出前授業】

小・中学生合同によ
る講演会において，
社会人講師による
「講演・出前授業」
を開催し，学校での
勉強の大切さを学ぶ
取組

○ 高校生と幼稚園児・小学生の交流

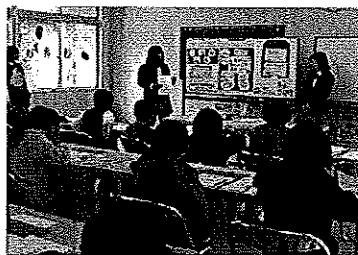
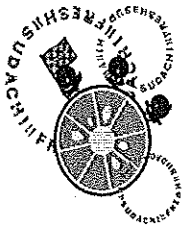


【田植え体験】

高校生と園児，小学生
と一緒に田植えや芋
掘りを行うことで，働
くことの喜びや，もの
づくりの大切さを学
ぶ取組



【芋掘り体験】



【出前授業】

高校生による小学校
への出前授業により，
教える高校生も教え
られる小学生も学習
を深め，交流を図る取
組

○ 異校種間における教職員交流







【教職員研修会】

異校種間における授
業公開や研究協議会
を通して，系統的な学
習の在り方を理解す
る取組



(2) 発達段階において家庭、地域・企業・経済団体・NPO等に期待される役割
 子供たちの人格形成やキャリア発達には、家庭や地域・企業・経済団体等における関わりが大きく影響してきます。

発達段階	家庭に期待される役割	地域・企業・経済団体・NPO等に期待される役割
幼稚園 幼稚部 	家庭での触れ合いや豊かな体験を通して、身近な大人に対する信頼や自らの環境に関わろうとする自発性を養う 方策：基本的生活習慣の育成 家庭での手伝い 幼稚園への協力	地域の人々との関わりを通して、地域の人々を身近に感じ、自分の住んでいる地域に親しみを持たせる 方策：地域の行事への参加 地域の人々との触れ合い
小学校 小学部 	“将来の夢”についての家庭での会話や家事の手伝い等を通して、将来の夢や希望を育むとともに、集団生活に参加しようとする意欲・態度を養う 方策：基本的生活習慣の育成・確立 学校への協力 行事への参加	地域の行事や職場見学等、学校を中心とする地域とのかかわりを通して、自分と地域とのつながりについて理解を得させる 方策：職場見学の受入れ 自然体験 講演・出前授業
中学校 中学部 	家庭での役割の理解と遂行、保護者や身近な大人の職業等の理解を通して、社会の一員としての自覚を高めるとともに、将来の生き方や進路への希望を育む 方策：将来設計や進路希望へのアドバイス 学校への協力 行事への参加 家庭での役割分担	職場体験や地域の行事への参加等を通して、地域の一員としての自覚を得させるとともに、将来の生き方、進路を考えさせる 方策：職場体験の受入れ 地域ボランティア体験 講演・出前授業 上級学校への訪問・体験
高等学校 高等部 	社会の一員としての自覚と参画、保護者や身近な大人の生き方（キャリア）の理解を通して、将来の生き方と当面する進路の明確化とその実現への努力を援助する 方策：将来設計や進路希望へのアドバイスや話し合い 学校への協力 行事への参加 家庭での役割分担	就業体験（インターンシップ）や地域の行事への責任ある参加等、異年齢の人々との講習や社会参画の機会を通して、地域の一員としての自覚を高めさせるとともに、リーダーシップやコミュニケーション能力を養わせる 方策：就業体験（インターンシップ）受入れ、地域ボランティア活動 講演・出前授業 上級学校との連携

① 家庭に期待される役割と連携の在り方

家庭は、子供の発達・成長を支え、自立を促す重要な場です。子供と働くことや将来の進路について話し合ったりすることを通して、子供たちは多くのことを学ぶことができることから、キャリア教育を進めるに当たり、家庭は重要な役割を果たしています。平成24年度に本県で行われた県民アンケートにおいても、子供たちが将来の仕事を考えたいきっかけとして、家族との会話が最も多く挙げられています。

また家庭教育の在り方や、働くことに対する保護者の考え方や態度は、子供たちの人格形成やキャリア発達に大きな影響を与えるものであり、子供たちは家庭における人間関係や生活体験を通して、将来職業人・社会人として必要とされる挨拶やマナー等の社会性を身に付けることができるとともに、「生き方」の基礎を培っていきます。

学校においては、このような家庭の役割を認識し、キャリア教育の方針や進路や職業に関わる情報、産業構造や進路をめぐる環境の変化等の情報を提供し、子供への働きかけについて共通理解を図ることが必要です。

② 地域・企業・経済団体・NPO等に期待される役割と連携の在り方

学校を取り巻く地域には、青少年センターや図書館、博物館等の社会教育施設や地域で活躍するボランティア団体・NPO法人、就労支援機関や様々な教育資源があります。これらの教育資源の中には社会人・職業人としての知識や経験が豊富な方が数多くおり、学校の様々な教育活動に参画していただくことによって子供たちに仕事や職業を認識させることができるとともに、子供たちが地域の行事に参加したり、企業等へ訪問することで、多くの方々と触れ合い、地域への愛着の気持ちが生まれることが期待されます。

本県においては、国立教育政策研究所が平成25年9月に公表した「平成24年度職場体験・インターンシップ実施状況等調査結果（概要）」によると、公立中学校における職場体験実施率は、98.8%で高い実施率となっています。

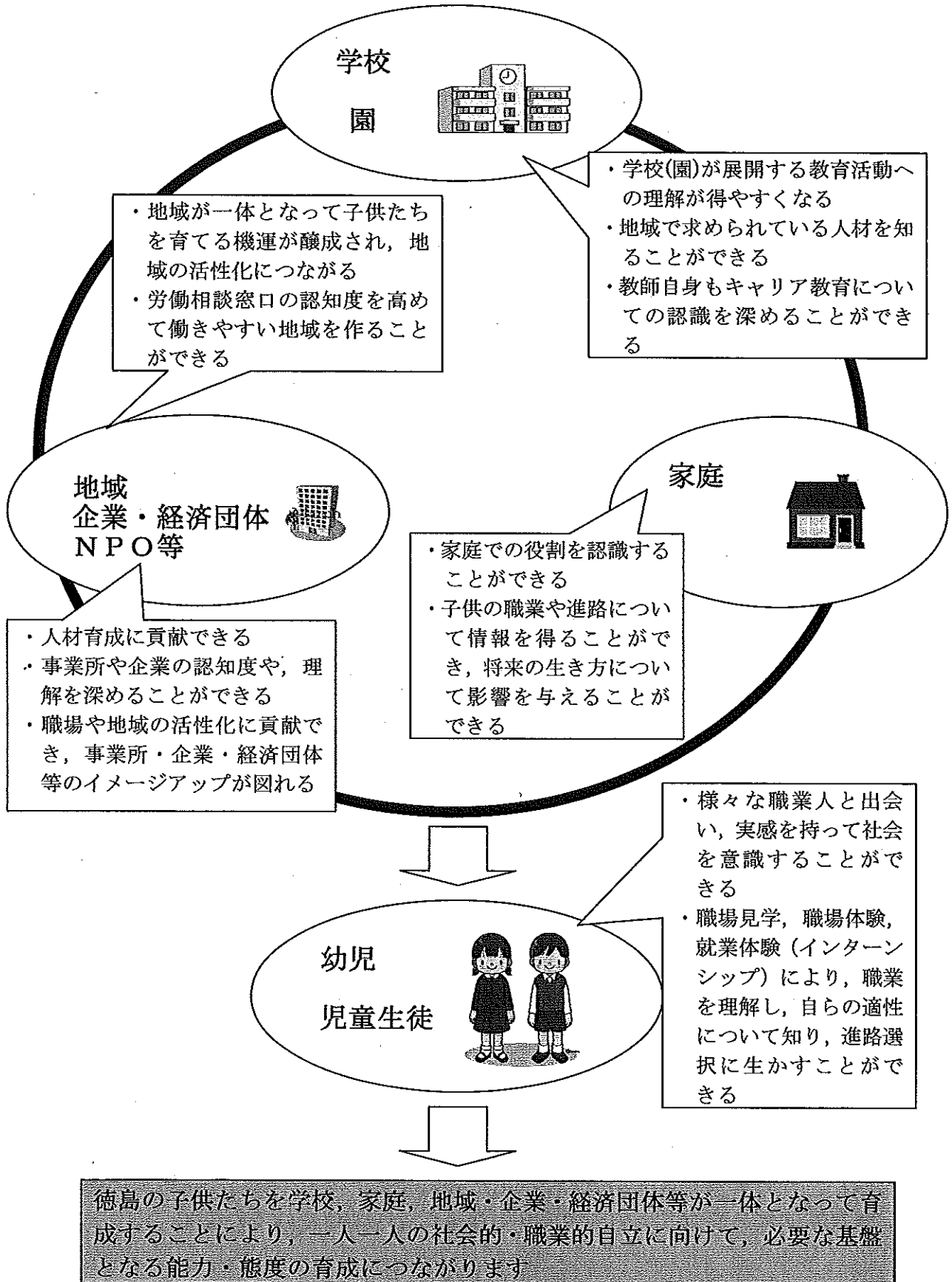
公立高等学校における就業体験（インターンシップ）実施状況については、参加人数は少ないという課題がありますが、学校単位で実施している割合は82.9%となっており、これらの結果からも、本県においては多くの学校が地域の企業等において職場体験や就業体験（インターンシップ）等の体験的な学習活動を取り入れています。

職場体験や就業体験（インターンシップ）等の体験的な学習活動では、現実に職場における大人とのコミュニケーションを通して、職業についての理解を深めたり、自己の適性や具体的な進路について考えることができるとともに、社会で求められる挨拶やマナー等について学ぶことにつながり、学校におけるキャリア教育を推進する上で、地域や企業等との連携は、極めて重要となります。

また、連携の在り方としては、企業・経済団体等の方々を学校の教育活動の中に、「講演・出前授業」の講師として招く方法があります。

専門的な知識や技能を有する多様な職場や立場の方々と子供たちが直接接することにより、学校での学びが仕事の現場で具体的にどのように生かされるのか、働くことの意義や喜びを実感を伴って意識することができ、子供たちの夢を育み、学習意欲を高めるきっかけづくりとなることが期待されています。

(3) 連携の効果



(4) 本県における学校のキャリア教育を支援する取組

本県では、企業・経済団体等からの「講演・出前授業」に関するキャリア教育支援の情報を全ての学校が入手し、検討することができるデータベースシステムを構築しています。

学校で閲覧できる「講演・出前授業」に関するデータを徳島県立総合教育センターのホームページに掲載しています。

「あわ教育サポーター企業等データベースシステム」

URL: <http://career-db.tokushima-ec.ed.jp/>

(参考) 「講演・出前授業」において期待される内容例

分野	項目
「かかわる力」 社会人として必要なこと (人間関係形成・社会形成能力の育成)	「働くこと」の意義・大切さ
	これからの社会で生きていくために必要な力とは
	学校での勉強がなぜ大切なのか
	お金の流れについて
	産業紹介
時代や社会の変化, 世界の動き, 日本の役割	
「みつめる力」 向上心や夢を持つ (自己理解・自己管理能力の育成)	夢を持つことの大切さ
	企業経営者からのメッセージ
「すすむ力」 仕事をする上で必要となること (課題対応能力の育成)	各企業の社員による体験談
	ビジネスマナー講習会
「えがく力」 仕事を知る (キャリアプランニング能力の育成)	各企業での業務内容及び紹介
	職業の選択について
	「ものづくり」などの実演・体験的な学習活動

4 体験的な学習活動の充実

体験的な学習活動の意義は、社会における様々な人や、自然や環境、自分自身を取り巻く様々な事象と触れ合うことによって社会をより実感することができ、子供たちの豊かな人間性や社会性を育むことができるとともに、向上心や学習意欲が喚起され、まさに「生きる力」の育成に資するものです。

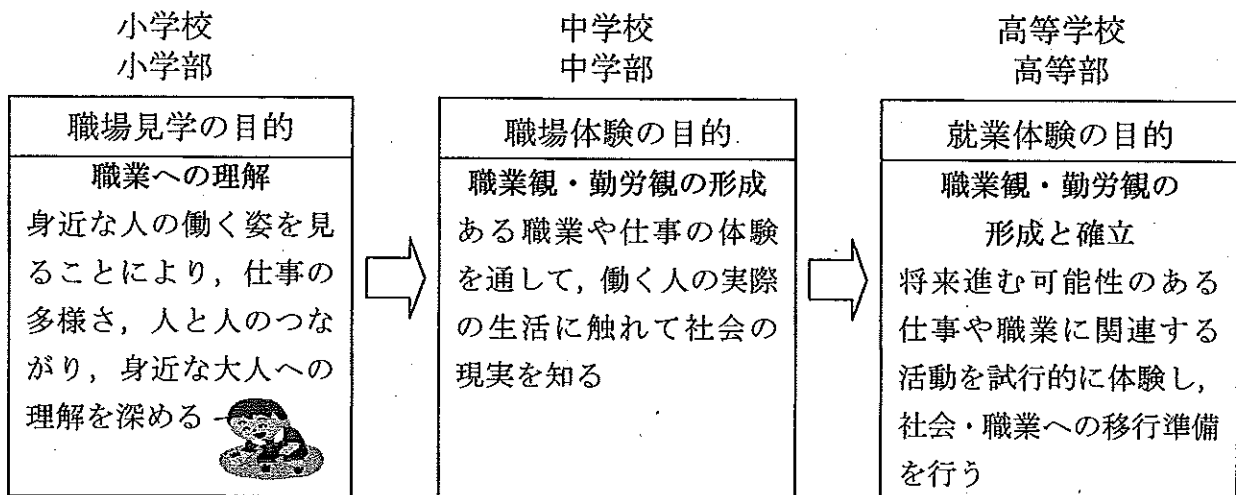
平成23年1月の中央教育審議会（答申）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、「キャリア教育の実施に当たっては、社会や職業にかかわる様々な現場における体験的な学習活動の機会を設け、それらの体験を通して、子供・若者に自己と社会の双方についての多様な気づきや発見を得させることが重要である」と明記されており、体験的な学習活動がキャリア教育を推進する上で極めて重要な取組であることが言われています。

学習指導要領においても、小学校では自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動等の体験活動、中学校では自然体験や職場体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動等の体験活動、高等学校では、自然体験や就業体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動等の体験活動を推進することが示されています。

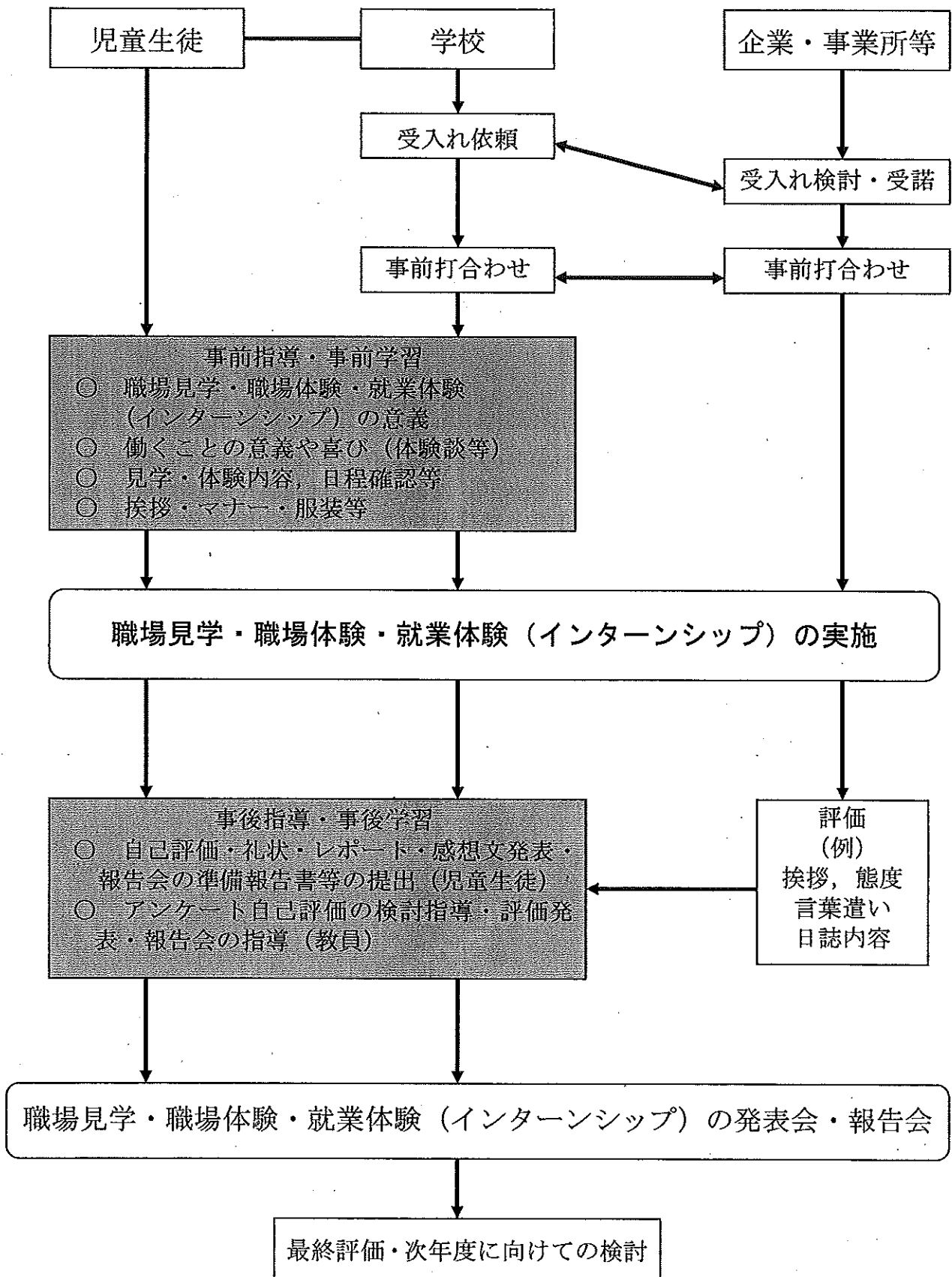
キャリア教育における体験的な学習活動の効果

- 働くことの意義や喜びを知り、勤労観や職業観が醸成される
- 学ぶことの意義や重要性を理解し、学びへの興味・関心が高まる
- 社会人としての基本的な礼儀、挨拶、マナー等が身に付く
- 自分の個性や特性を知り、主体的に今後の生き方や進路選択について考える
- 様々な人との関わりの中で、望ましい人間関係形成力の育成につながる
- 地域の人との関わりを通しての地域の再発見や地域への愛着につながる

キャリア教育の視点からは、特に「職場や就業にかかわる体験活動」が重要な役割を果たすものであり、職場見学・職場体験・就業体験（インターンシップ）によって現在の学習と実社会との関係についての理解が深まり、学習意欲全般の向上につながると思われています。発達段階において学ぶことは違いますが、どの段階においても**体験を通して学ぶ**ということは大切です。



(1) 職場見学・職場体験・就業体験（インターンシップ）の流れ（例）



平成25年3月に本県で実施した「キャリア教育に関するアンケート」において、「学校においてキャリア教育を適切に行っていく上で、今後重要になると思われることについて」という項目では、小学校・中学校・高等学校において「キャリア教育における体験活動を実施すること」、「キャリア教育にかかわる体験活動の事前・事後指導の重視」、「キャリア教育に関する教員の理解と協力を得ること」が上位を占めており、学校全体における体験活動の推進や体験活動における事前指導と事後指導の必要性が挙げられています。

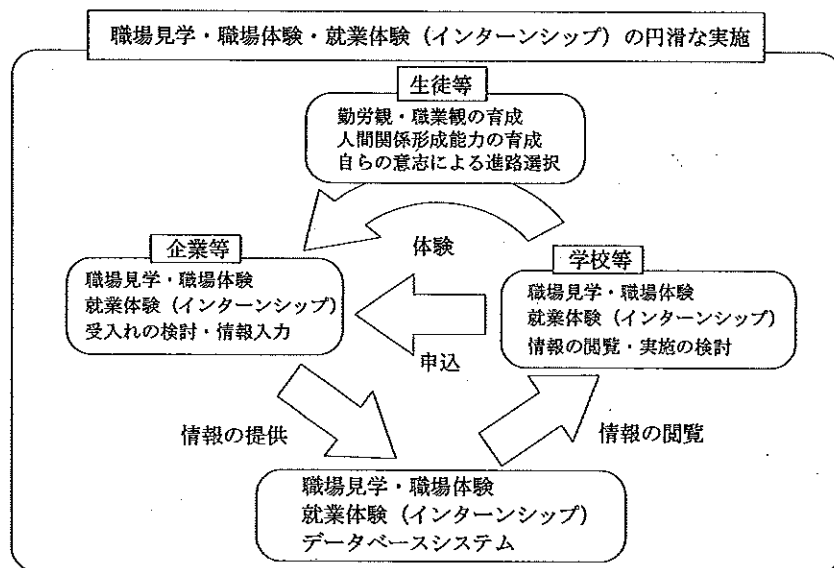
職場見学・職場体験・就業体験（インターンシップ）を受け入れている本県企業等からの声

- 就業体験（インターンシップ）受け入れのための人的余裕や資金的余裕がない中、将来徳島県に貢献できる人材を育成するために受け入れている
- 児童生徒の関心を高めるための事前指導をしっかりとしてほしい
- 目的意識を持って来てほしい
- 挨拶やマナー等の基本的な生活習慣をしっかりと指導してほしい
- 日々の教育活動の中で、忍耐力やチャレンジ精神を身に付けさせてほしい

このような企業等の声をしっかりと受け止めて、学校においても職場見学・職場体験、就業体験（インターンシップ）における事前指導や事後指導の充実や、社会人・職業人として必要とされる挨拶やマナー、忍耐力等を身に付けさせる必要があります。

(2) 本県における職場見学・職場体験・就業体験（インターンシップ）を円滑に実施するための取組

「キャリア教育に関するアンケート」からは、職場体験・就業体験（インターンシップ）を実施する課題として「受入先の開拓や連絡」が挙げられており、学校と受入先企業等とのマッチングを行うために、次のように受入先企業等における情報を提供し、学校が情報をもとに実施について検討し、受入先企業等に直接実施について申し込むことができるデータベースシステムを構築しています。



学校で閲覧できる職場体験・職場見学・就業体験（インターンシップ）の情報を徳島県立総合教育センターのホームページに掲載しています。

「あわ教育サポーター企業等データベースシステム」

URL : <http://career-db.tokushima-ec.ed.jp/>

キャリア教育に関する参考資料

1 キャリア教育とは

(1) キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

一人一人が「生きる力」を身に付け、しっかりとした勤労観・職業観を形成し、将来直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力、社会人・職業人として自立するために必要な力、そのような力を意図的に培っていく教育がキャリア教育です。

キャリアとは

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもあるが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいる。

人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものである。

このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

キャリア発達とは

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

(2) キャリア教育で育成する力

中央教育審議会では、これまで国が示していた「キャリア発達に関わる諸能力(例)」の「4領域8能力」を基に、「仕事に就くこと」に焦点を当て再構成し、「分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力」として「基礎的・汎用的能力」を示しています。

基礎的・汎用的能力とは

人間関係形成・社会形成能力

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

例) 他者に働きかける力, コミュニケーション・スキル, チームワーク, リーダーシップ

自己理解・自己管理能力

「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

例) 自己の役割の理解, 前向きに考える力, 自己の動機付け, 忍耐力, ストレスマネジメント, 主体的行動

課題対応能力

「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

例) 情報の理解・選択・処理等, 本質の理解, 原因の追究, 課題発見, 計画立案, 実行力, 評価・改善

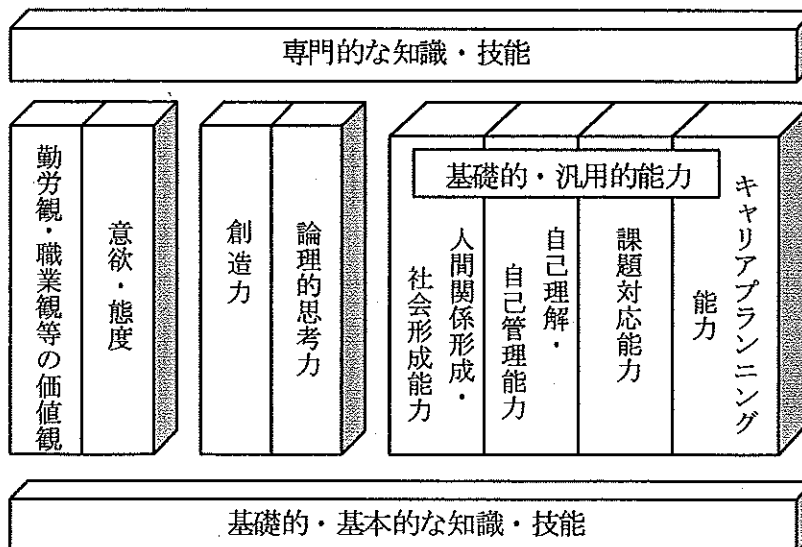
キャリアプランニング能力

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

例) 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解, 多様性の理解, 将来設計, 選択, 行動と改善

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

「社会的・職業的自立, 社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素



(3) 学習指導要領におけるキャリア教育の位置付け

学習指導要領におけるキャリア教育の位置付けとして、⑤番目のところ学習意欲の向上や学習習慣の確立を重視しています。

学習指導要領改訂の基本的な考え方

今回の学習指導要領改訂では、改正教育基本法等で示された教育の基本理念を踏まえるとともに、現在の子どもたちの課題への対応の視点から、

- ① 「生きる力」という理念の共有
 - ② 基礎的・基本的な知識・技能の習得
 - ③ 思考力・判断力・表現力等の育成
 - ④ 確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保
 - ⑤ 学習意欲の向上や学習習慣の確立
 - ⑥ 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実
- がポイントであり、その中でも、特に、②を基盤とした③、⑤及び⑥が重要と考えた。

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」(平成20年1月17日))

学習意欲の向上や学習習慣の確立のための四つの観点(抜粋)

第一は、家庭学習も含めた学習習慣の確立に当たっては、特に小学校の低・中学生の時期が重要である。

第二は、「重点指導事項例」なども参考に、習熟度別・少人数指導や補充的な学習といったきめ細かい個に応じた指導などを必要に応じ外部人材の活用を図りつつ行うことにより、子どもたちがつまずきやすい内容をはじめ基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る必要がある。分かる喜びは学習意欲につながる。

第三は、観察・実験やレポートの作成、論述など体験的な学習、知識・技能を活用する学習や勤労観・職業観を育てるためのキャリア教育などを通じ、子どもたちが自らの将来について夢やあこがれをもったり、学ぶ意義を認識したりすることが必要である。

第四は、全国学力・学習状況調査等を通じた教育成果の様々な評価により、設置者等において、学習意欲や学習習慣に大きな課題を抱えている学校を把握し、これらの学校に対する支援に努める必要がある。

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」(平成20年1月17日))

子供たちの学ぶ意欲の向上のためには、学びと実社会との連結、将来に対する夢や希望、具体的な知識・技能を指導することが不可欠であり、これはキャリア教育の重要な役割です。

(4) 道徳教育とキャリア教育の関係

学習指導要領において、道徳教育はキャリア教育と関連の深い内容が付加されており、社会的な自立を図るために必要な資質・能力・態度として位置付けられています。道徳教育もキャリア教育も「生き方」に関わる教育であり、小・中学校においては道徳の時間にキャリアの視点を生かす取組を行うとともに、高校においても小・中学校での取組を踏まえての実践が必要です。

(5) キャリア教育と進路指導との違い

○キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

○進路指導

進路指導は、本来、生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験及び相談を通じて、生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、就職又は進学をして、更にその後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいかといった長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

このように、進路指導のねらいはキャリア教育の目指すところとほぼ同じとなっていますが、従来型の進路指導の課題としては、入試が終われば、進路指導は終わるといふ、集中的な支援として認識されていたことが挙げられます。

進路指導において、今の学びと生活・社会がどのように結び付いているかという生涯を通じた人間形成という視点から指導することが必要となります。

2 本県におけるキャリア教育の現状

【資料1】

「平成25年度 キャリア教育に関するアンケート調査」より

本県におけるキャリア教育の現状と課題を把握するために、平成25年3月に小学校・中学校・高等学校を対象としたアンケート調査を実施し、全国調査と比較しました。この結果からは、本県学校におけるキャリア教育を推進する体制やキャリア教育への理解について課題があることが分かります。

問1) キャリア教育の企画や全体計画等の作成を中心となって進める担当者の校務分掌上の位置付けについて (単位%)

回答項目	小学校		中学校		高等学校	
	本県	全国	本県	全国	本県	全国
キャリア教育のみを担当している	0.0	1.5	1.0	4.6	0.0	9.1
他の担当と兼任している	56.6	82.4	86.0	93.4	74.3	88.1
担当者はいない	43.4	16.1	13.0	2.0	25.7	2.8

問2) 学校におけるキャリア教育の全体計画について

回答項目	小学校		中学校		高等学校	
	本県	全国	本県	全国	本県	全国
計画がある	6.3	63.4	20.9	81.3	5.7	70.4
計画はない	93.7	36.6	79.1	18.7	94.3	29.6

問3) 平成24年度におけるキャリア教育に関する教職員研修会の有無について

(単位%)

回答項目	小学校		中学校		高等学校	
	本県	全国	本県	全国	本県	全国
実施した	11.1	45.6	10.5	62.7	14.3	65.4
実施していない	88.9	54.4	89.5	37.3	85.7	34.6

【資料2】

「平成25年度 全国学力・学習状況調査学校質問紙」より

全国学力・学習状況調査学校質問紙の回答結果からは、全国・本県とも小学生に比べて中学生では、将来の夢や目標の実現に向かって努力しようとする意識の低下がみられるとともに、学習への意欲の低下や計画を立てて学習するという主体性においても課題がみられます。

また、学年が上がるにつれて、なりたい職業についての夢や希望を持っている生徒が減少しているとともに、自己肯定感の低下や、地域や社会で起こっている問題や出来事についての関心も薄くなっています。

肯定的な回答の割合(単位%)

設問項目	小学6年生		中学3年生	
	本県	全国	本県	全国
将来の夢や目標を持っていますか	87.2	87.7	73.6	73.5
将来の夢や目標を実現するために努力していますか	80.3	81.2	65.8	64.8
将来何か職業や仕事に就いて働きたいと思いませんか	92.3	92.1	95.2	94.6
将来なりたい職業はありますか	84.3	84.9	72.2	69.5
あなたには「あのような人になりたい」と思う人はいますか	74.9	75.6	66.7	69.1
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	55.7	58.9	49.9	44.5
自分にはよいところがあると思いませんか	76.2	75.7	64.9	67.4
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	54.2	57.4	48.1	51.8

【資料3】

「平成24年度生徒の意識等に関わる調査について(徳島県)」より

高校生の意識については、高校1、2年生とも将来好きな仕事に就きたいという高い意識を持っていますが、将来の夢や目標を持っていない生徒が3割にも達しています。

また、世の中の動向に関心を持っている生徒や課題を自らの力で解決しようとする生徒の割合も7割に達していない状況となっています。さらに自己肯定感については小学校・中学校からさらに低下しています。

肯定的な回答の割合(単位%)

回答項目	全日制 高校1年生	全日制 高校2年生
将来の夢や目標を持っている	70.6	68.6
将来好きな仕事に就きたい	94.2	91.2
将来、社会や人の役に立ちたい	84.0	80.5
分からないことでも自分の力で答を見つけたい	68.8	64.4
世の中の出来事に関心がある	64.5	65.7
自分にはよいところがある	59.2	56.1

【資料4】

「新規高等学校卒業就職者の離職率の推移」より

本県においては、就職率は3年連続で98%を超えており全国との比較においても高い就職率となっています。その一方で、高校卒業3年以内の離職率は、38.1%と全国平均を上回っています。全国的な傾向として離職の理由として「仕事が向いていない」「職場の人間関係」が挙げられています。

卒業年次	(単位%)			
	卒業後 1年目	卒業後 2年目	卒業後 3年目	卒業後 3年間の計
平成19年3月卒業	23.0 (21.6)	11.8 (11.8)	5.6 (6.9)	40.3 (40.4)
平成20年3月卒業	22.0 (19.5)	9.4 (10.0)	8.3 (8.1)	39.7 (37.6)
平成21年3月卒業	19.2 (17.1)	12.1 (10.1)	6.8 (8.4)	38.1 (35.7)

上段は徳島県 下段()は全国

【資料5】

「平成24年度本県高等学校におけるインターンシップ実施状況」より

体験的な学習の一環であるインターンシップ実施状況について、生徒の参加数に着目してみると少ない状況がわかります。

学科	学年	(単位人)	
		全生徒数	体験した生徒数
普通科	1年生	4,153	453
	2年生	4,241	335
	3年生	4,222	176
総合学科	1年生	332	80
	2年生	329	73
	3年生	323	21
専門学科	1年生	1,592	76
	2年生	1,566	628
	3年生	1,517	140

【資料6】

「平成25年度 キャリア教育に関するアンケート調査」より

諸機関との連携について

各学校における諸機関との連携については「家庭や保護者」、「企業や事業所など」との連携がほとんどであり、特定非営利法人をはじめとする公共職業安定所や地域若者サポートステーション等は活用されていません。

小学校、中学校においては「家庭や保護者」、「企業や事業所など」との連携は全国平均より低い傾向にあります。諸機関との連携で多い依頼項目は、各校種とも、「講演・実演等依頼」や「職場見学・職場体験・就業体験（インターンシップ）」等の受入依頼や開拓となっています。

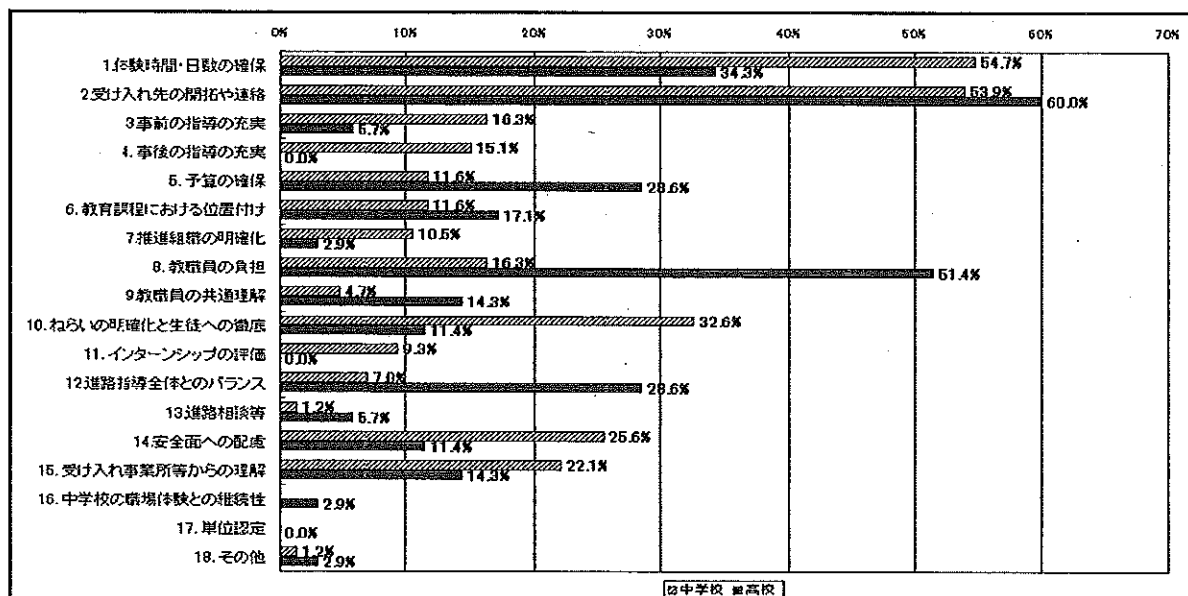
学校	項目	否定的な回答の割合（単位％）	
		本県	全国
小学校	家庭や保護者	31.2	29.7
	企業や事業所	41.8	30.2
	特定非営利法人（コーディネータ等）	88.4	82.6
中学校	家庭や保護者	20.9	9.3
	企業や事業所	7.0	2.6
	特定非営利法人（コーディネータ等）	95.3	87.9
高等学校	家庭や保護者	48.6	41.1
	企業や事業所	17.1	19.2
	特定非営利法人（コーディネータ等）	68.6	74.2

【資料 7】

「平成 25 年度 キャリア教育に関するアンケート調査」より

中学校（職場体験）、高等学校（インターンシップ）における今後の課題

中学校、高等学校ともに、受入先の開拓や連絡を課題と捉えており、学校と受入先企業とのマッチングを行う必要があります。



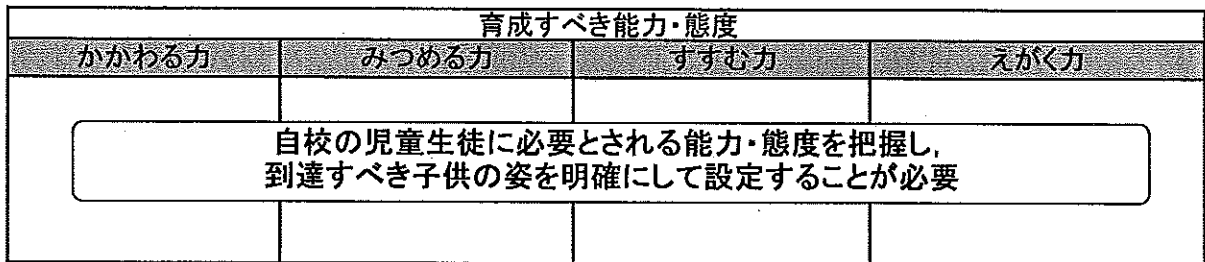
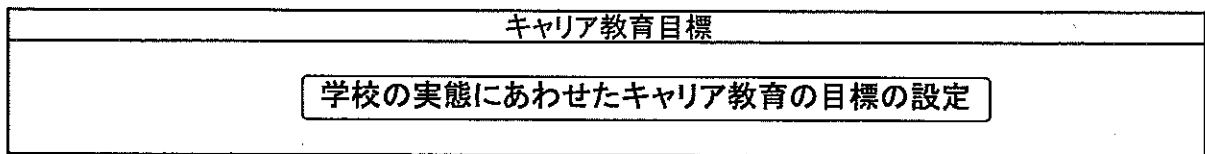
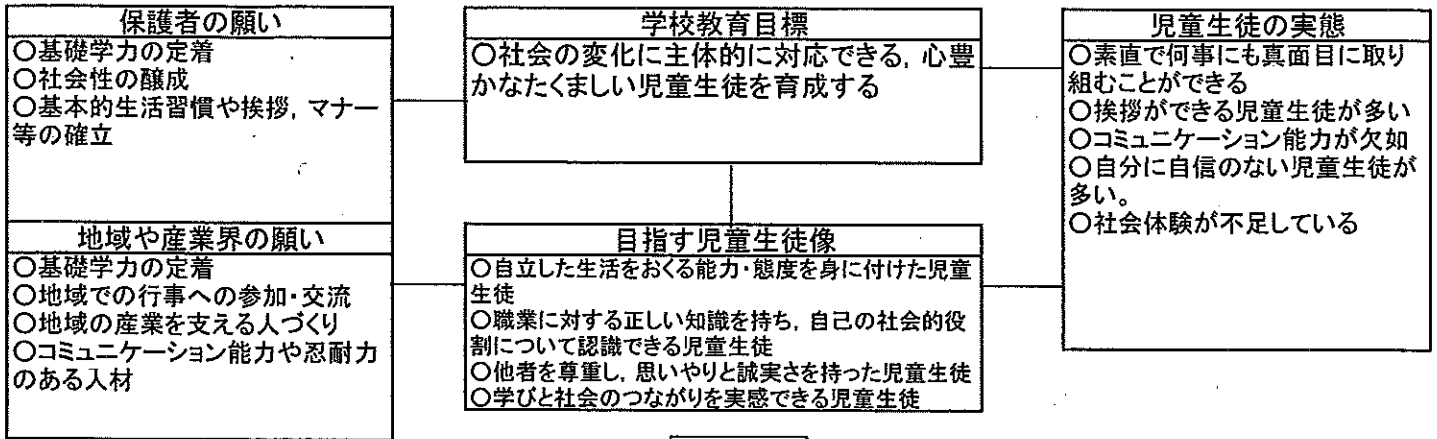
【資料 8】

「特別支援学校における就業体験人数及び事業所への訪問回数状況」（平成24年度）

特別支援学校では、生徒の卒業後の職業的自立を目指して、職場体験・就業体験（1週間程度：年2回）を実施しています。多様な実態の生徒が在籍する中、生徒の能力や特性が生かせる就職先や施設・事業所等とのマッチングが十分できるよう、適宜実習先と調整して進める必要があります。

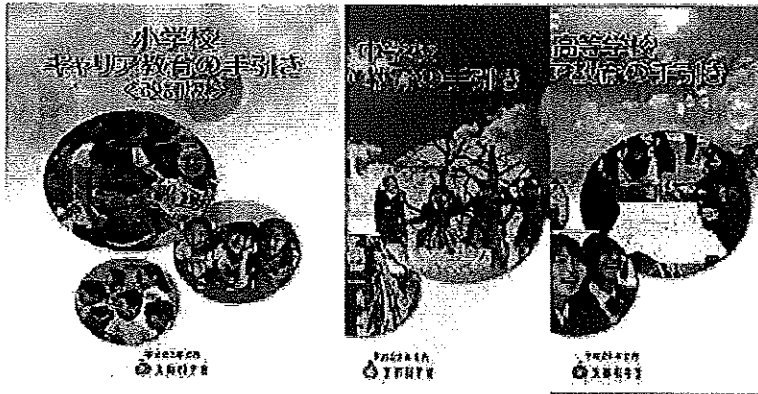
回答項目	全体（9校2分校）	平均
就業体験人数について	229（人）	21（人）
事業所への訪問回数について	1,283（回）	116（回）

3 本県キャリア教育の全体計画（例）

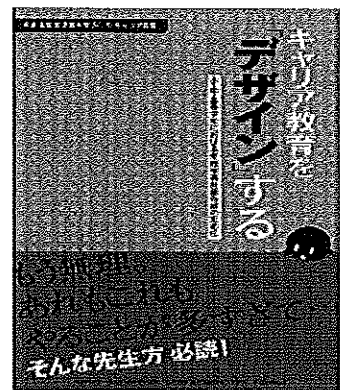


各学年における重点目標		
1学年(低学年)	2学年(中学年)	3学年(高学年)
【各教科・科目】	【各教科・科目】	【各教科・科目】
【特別活動】	【特別活動】	【特別活動】
【総合的な学習の時間】	【総合的な学習の時間】	【総合的な学習の時間】
【道徳, その他の活動】	【道徳, その他の活動】	【道徳, その他の活動】

4 学校で活用できる資料・冊子



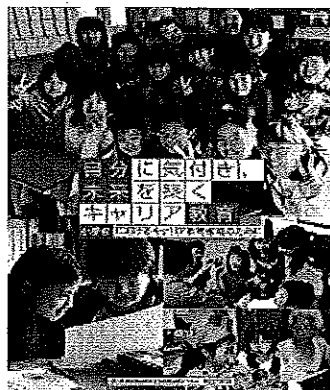
小学校<改訂版>・中学校・高等学校
キャリア教育の手引き
文部科学省



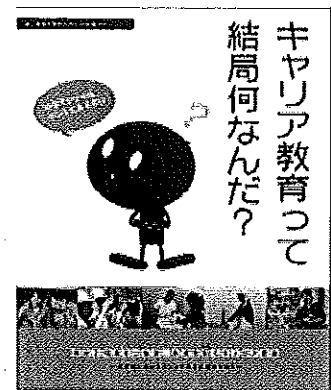
キャリア教育を「デザイン」する
国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター



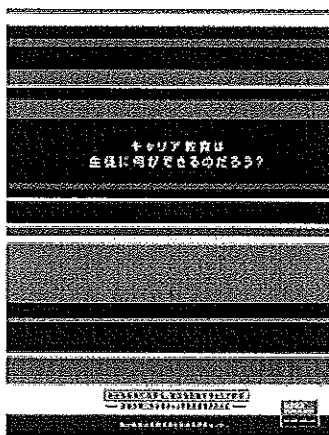
キャリア教育を創る
国立教育政策研究所生徒指導研究センター



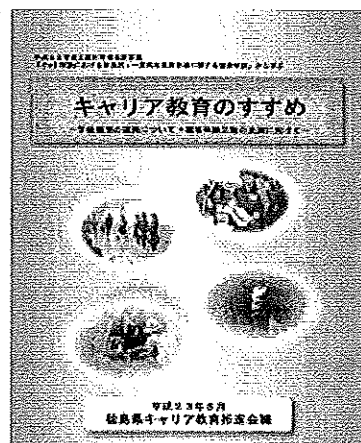
自分に気付き、未来を築くキャリア教育
小学校におけるキャリア教育推進のために
国立教育政策研究所生徒指導研究センター



キャリア教育って結局何なんだ？
中学校におけるキャリア教育推進のために
国立教育政策研究所生徒指導研究センター



キャリア教育は生徒に何ができるのだろうか？
高等学校におけるキャリア教育推進のために
国立教育政策研究所生徒指導研究センター



キャリア教育のすすめ
徳島県キャリア教育推進会議



キャリア教育の推進に向けて
徳島県教育委員会

- 上記の各冊子・資料は、文部科学省ホームページ「キャリア教育」から参考にしてください。
- 徳島県教育委員会作成冊子については、徳島県立総合教育センターホームページから参考にしてください。

平成25年度 「徳島県キャリア教育推進協議会」委員

穴吹 敏規	徳島労働局職業安定部部長
天羽 俊夫	徳島県高等学校長協会会長
石井 博	市町村教育委員会教育長会会長
岡本 富治	徳島県商工会連合会会長
柿内 慎市	徳島県経営者協会会長
片岡 武	徳島県技能士会連合会会長
兼松 功	徳島市・名東郡小学校・中学校PTA連合会会長
○ 兼松 甚志	徳島県産業人材育成センター所長
川田 人包	徳島県特別支援学校長会会長
川端 恵子	徳島県国公立幼稚園長会会長
近藤 紳一郎	一般社団法人徳島経済同友会代表幹事
近藤 宏章	徳島県商工会議所連合会会長
里見 光一郎	徳島県信用保証協会会長
椎野 正敬	徳島県高等学校PTA連合会会長
七條 和恵	徳島県小学校長会会長
谷 明彦	徳島県PTA連合会会長
坪井 次郎	徳島県中学校長会会長
◎ 西村 公孝	鳴門教育大学教授
福田 哲也	公益財団法人とくしま産業振興機構理事長
藤原 義司	徳島県職業能力開発協会会長
前田 幸宣	徳島県教育委員会学校政策課課長
山城 真一	徳島県中小企業家同友会代表理事
山本 紘一	徳島県中小企業団体中央会会長

(五十音順)

◎委員長 ○副委員長

徳島県キャリア教育推進指針
発行 徳島県教育委員会学校政策課

